

聞き已りなば亦疑を生ぜじ」等云云。文の意は、寿命の法門は滅後の為に之を請するなり。寿命品に云く、「或は本心を失える、或は失わざる者あり。乃至、心を失わざる者は、此の良薬の色・香俱に好きを見て即便之を服するに、病悉く除こり愈えぬ」等云云。久遠下種・大通結縁、乃至、前四味・迹門等の一切の菩薩・二乗・人天等が本門に於て得道するは是なり。經に云く、「余の心を失える者は其の父の來れを見て、亦歡喜し問訊して病を治せんことを求索むと雖も、然も其の薬を与うるに而も肯て服せず。所以は何ん、毒氣深く入つて本心を失えるが故に、此の好き色・香ある薬に於て美からずと謂えり。乃至、我今当に方便を設けて此の薬を服せしむべし。乃至、是の好き良薬を今留めて此に在く。汝取つて服すべし、差えじと憂うること勿れと。是の教を作し已つて復他國に至り、使を遣わして還つて告ぐ」等云云。分別功德品に云く、「惡世末法の時」等云云。

問うて曰く、此の經文の「遣使還告」とは如何。答えて曰く、四依なり。四依に四類有り。小乗の四依は多分は正法の前の五百年に出現す。大乘の四依は多分は正法の後の五百年に出現す。三に迹門の四依は多分は像法一千年、少分は末法の初めなり。地涌千界は末法の始めに必ず出現すべし。今の「遣使還告」は地涌なり。「是好良薬」とは寿命品の肝要たる名・体・宗・用・教の南無妙法蓮花經是なり。此の良薬をば仏猶迹化に授与したまわず。何に況や他方をや。神力品に云く、「爾の時に千世界微塵等の菩薩摩訶薩の地より涌出せる者、皆仏前に於て一心に合掌して尊顔を瞻仰して、仏に白して言さく、世尊、我等仏の滅後、世尊分身所在の国土、滅度の処に於て、当に広く此を説くべし」等云云。天台云く、「但

下方の發誓のみに見る」等云云。道暹云く、「付嘱とは、此の經は唯下方踊出の菩薩に付す。何が故にか  
 爾る。法是れ久成の法なるに由るが故に、久成の人に付す」等云云。夫れ文殊師利菩薩は東方金色世界の  
 不動仏の弟子、觀音は西方無量壽佛の弟子、藥王菩薩は日月淨明德佛の弟子、普賢菩薩は宝威佛の弟  
 子なり。一往、釈尊の行化を扶けんが為に娑婆世界に來入す。又爾前・迹門の菩薩なり。本法所持の  
 人に非ざれば、末法の弘法に足らざる者か。經に云く、「爾の時に世尊、乃至、一切の衆の前に、大神力を  
 現じたまう。広長舌を出して上梵世に至らしめ、乃至、十方世界の衆の宝樹下の師子座上の諸佛も亦復  
 是の如く、広長舌を出したまう」等云云。夫れ彌・蜜二道、一切の大・小乘經の中に釈迦・諸佛並坐し、  
 舌相梵天に至るの文之無し。阿彌陀經の広長舌相三千を覆うは有名無実なり。般若經の舌相三千、光を  
 放ちて般若を説きしも全く証明に非ず。此れ皆兼帶の故、久遠を覆相するが故なり。是の如く十神力を  
 現じて地涌の菩薩に妙法の五字を囑累して云く、經に云く、「爾の時に佛、上行等の菩薩大衆に告げた  
 まわく、諸佛の神力は是の如く無量無辺不可思議なり。若し我是の神力を以て、無量無辺百千萬億阿僧  
 祇劫に於て、囑累の爲の故に此の經の功德を説かんに、猶お尽すこと能わじ。要を以て之を言わば、如  
 來の一切の所有の法、如來の一切の自在の神力、如來の一切の秘要の藏、如來の一切の甚深の事、皆此  
 の經に於て宣示顯説す」等云云。天台云く、「爾時佛告上行より下は、第三に結要付属なり」云云。伝教  
 云く、「又神力品に云く、以要言之、如來一切、所有之法、乃至、宣示顯説已上、明らかに知りぬ、果分  
 の一切の所有の法、果分の一切の自在の神力、果分の一切の秘要の藏、果分の一切の甚深の事、皆法花